

平成25年度第6回教育研究評議会議事要旨

日時 平成25年10月18日（金）15時30分～16時56分
場所 大学本部2階大会議室
出席者 佛淵学長，瀨口理事，中島理事，岩本理事，宮崎理事，福本文化教育学部長，平地経済学部長，石橋工学系研究科長，渡邊農学部長，諸泉全学教育機構副機構長，稲岡附属図書館長，遠藤教養教育運営機構長，吉田総合分析実験センター長，甲斐評議員，畑山評議員，大田評議員，大島評議員
欠席者 藤本医学部長，後藤医学部附属病院副病院長，萩原評議員
陪席者 川上監事，増子評価室長，穂屋下全学教育機構教授，早瀬文化教育学部教授

○ 前回議事要旨について

学長から，平成25年度第5回教育研究評議会議事要旨（案）を評議員に送付，確認したところ，加除・修正等の意見はなかったため，原案のとおり確定し，ホームページに掲載している旨，報告があった。

○ 学長から，新任の評議員の紹介があった。

○ 審議事項

1. 佐賀大学早期卒業に関する規程の制定について

瀨口理事から，学則に基づいての規程の制定である旨の発言があった。

なお，この件に関して，教務課長から早期卒業の要件等について詳細説明があった。

遠藤教養教育運営機構長から，佐賀大学早期卒業に関する規程（案）第2条の主語が「早期卒業とは」なので，結びは「卒業をいう」ではないかとの発言があり，修正することで審議の結果了承された。

2. 平成26年度学年暦及び年間行事予定表（案）について

瀨口理事から，各学部の意見を伺い，予備日や補講日の設定等について勘案し，作成した旨の発言があった。

なお，この件に関して，教務課長から行事等の詳細説明があり，審議の結果了承された。

3. 学長選考会議委員の選出について

総務部長から，医学部長及び大学院工学系研究科長の交代に伴う委員の選出について説明があり，審議の結果了承された。

4. 佐賀大学入学者選抜規則の一部改正について

学務部長から，本件について，佐賀大学入学者選抜規則第2章第2条第2項の入試委員会委員にアドミッションセンター副センター長を追加した旨の説明があり，審議の結果了承された。

5. 佐賀大学日本語・日本文化研修コース規程の制定について
国際課長から、本件の授業科目及び履修方法を明確にするために学長裁定により制定した旨の説明があり、審議の結果了承された。

6. その他

特になし

○ 報告事項

1. 研究費不正使用防止のための研究費使用ルール理解度・浸透度調査（アンケート）結果について

岩本理事から、本件に関して、全教職員についてアンケート調査を行ったが回答率が低かったこと、また、正解率が低い項目もあったとの報告があった。

2. 寄附金の会計処理の調査結果について

岩本理事から、平成23年度会計検査院実地検査報告を受け、文部科学省から調査を行うよう指導があった件の調査結果について報告があり、また、今後の方向性についての説明があった。

4. 平成25年度（10月期）大学院入学者数について

教務課長から、10月期の入学者数について報告があった。

5. 佐賀大学プロジェクト研究所の認定について

中島理事から、新規プロジェクト3件について報告があった。

6. 佐賀大学とヴィタウタス・マグヌス大学（リトアニア）との大学間交流協定及び学生交流協定の締結について

国際課長から、本件について、平成25年8月に大学間の学術交流協定及び学生交流覚書を締結したこと、また、概要について報告があった。また、覚書の内容について役員会で疑義のあった締結効力が及ぶ言語について、先方に確認したところタイプミスとのことだったので、英語のみの効力として、修正することの報告があった。

8. 全学委員会等の審議状況報告について

特になし。

9. その他

特になし。

○ 意見交換

・ 学士力養成のための共通基盤システムを活用した主体的学びの促進

学長から、今回の意見交換では、一学士力養成のための共通基盤システムを活

用した主体的学びの促進—をテーマとし、意見をいただきたい旨の発言があった。

次いで穂屋下全学教育機構教授から、平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」の概要及び「eラーニングを活用した「自律的・主体的学びの場」の確保」等について説明があった。

中央教育審議会の答申において、学士課程教育の質的転換に向けて「教育課程の体系化」「教育方法の改善」「教員の教育力向上」「学修成果の把握」などについて、好循環の確立が求められており、そのために8つの多様な大学が集まり、ICTを用いて、初年度の学修支援、キャリア系の学修支援及びアクティブラーニングなどを行い、学生の社会人基礎力の向上を達成していくことあり、また、各大学の特色を活かし、本学は英語について主幹校の役割を担い、数学、英語、日本語、情報、学修観についてプレイスメントテストを実施して学生個々人の弱点を発見し、フィードバックして学修に活かすとの説明があった。

また、英語WGの主幹校として、「プレイスメントテスト」「到達度テスト」「eラーニング学習教材」「ルーブリックの利用」「TOEICの模擬試験」「e-TOEICコース」の方法等を設けて、実施していく旨の説明があった。

プレイスメントテストの実施結果の個票については、コメント等を自動作成しているが、これから精度上げていくこと、また、チューターの先生方に面接等に利用していただきたいとの発言があった。プレイスメントテストを実施することで、主体的な学びの場を作り、到達度テストやルーブリック評価により確認を行い、社会人としての基礎力を向上させ、従来の専門教育を教授できるようにしていきたいとの発言があった。

事前学習や復習をeラーニング教材を使用して行い、効果的な授業かつ単位の実質化を図ること、また、英語のみならず日本語についても、愛知大学が10段階に分けたレベルの問題等を受講していくことで、社会人基礎力の向上を目指すとの説明があった。

早瀬文化教育学部教授から、社会人基礎力が足りない学生については、大学としてしっかりフォローしてあげる必要があるとの発言があった。

石橋工学系研究科長から、学内での教育に反映するだけでなく、入試のあり方についても言及していただきたいとの発言があり、学長から、高等教育がユニバーサル化し、高校での勉強が偏ってきているので、本学として、よい取り組みを行い学士力を高めていきたいとの発言があった。

なお、次回の意見交換は、「佐賀大学改革プランについて（仮題）」として行うことが確認された。

以上